

スポーツマネジメント論		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312202 12220203 13220204 11531201 12531201 13531201	

1. 授業のねらい・概要

我が国におけるスポーツは、学校体育にみられる教育的価値の実現を前提として発展してきたが、社会の変化とともにスポーツの楽しさや喜び、健康増進等多様な価値が見出され、人々の生活の中に取り込まれるようになった。スポーツマネジメントとは、文化としてのスポーツと人々との直接的な関わり合いを成立させ、スポーツの持つ文化的な価値がより多くの人々に享受されるように促す営みである。よって、スポーツマネジメントは経済的利潤のみを目的とするものではなく、人々の豊かなスポーツ生活の実現を目指してスポーツを創造し供給することを目的としていることを理解する必要がある。本講義は、スポーツマネジメントの基本概念を理解し、学校体育や地域スポーツ等様々なスポーツ実践領域におけるマネジメントの考え方を学ぶ。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメ等を配布する。また、隔回授業最後にリアクションペーパーを提出し、授業内容の理解度を確認する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、成績と評価について等）	9. 体育・スポーツ事業の運営：クラブサービス事業
2. スポーツマネジメントの概念と実践領域	10. スポーツマネジメントと学校体育
3. スポーツマネジメントの構造	11. 学校運動部活動のマネジメント
4. 運動者と運動者行動	12. スポーツ組織のマネジメント
5. 豊かな運動生活の捉え方	13. 地域スポーツのマネジメント
6. 体育・スポーツ事業と経営資源	14. スポーツマーケティングの考え方
7. 体育・スポーツ事業の運営：エリアサービス事業	15. まとめ
8. 体育・スポーツ事業の運営：プログラムサービス事業	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、今回の講義内容に関する情報収集をしておくこと。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、リアクションペーパーについては、記述内容のポイントや評価の基準に関する説明を次週の授業内で行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツマネジメントの目的や基本概念を理解し、スポーツの現代的な課題に対してスポーツマネジメントの視点から考察できるようになることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）、リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏 編著「テキスト体育・スポーツ経営学」（大修館書店，2017）

柳沢和雄・清水紀宏・中西純司 編著「よくわかるスポーツマネジメント」（ミネルヴァ書房，2017）

畑攻・小野里真弓 編著「基本スポーツマネジメント」（大修館書店，2017）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。